

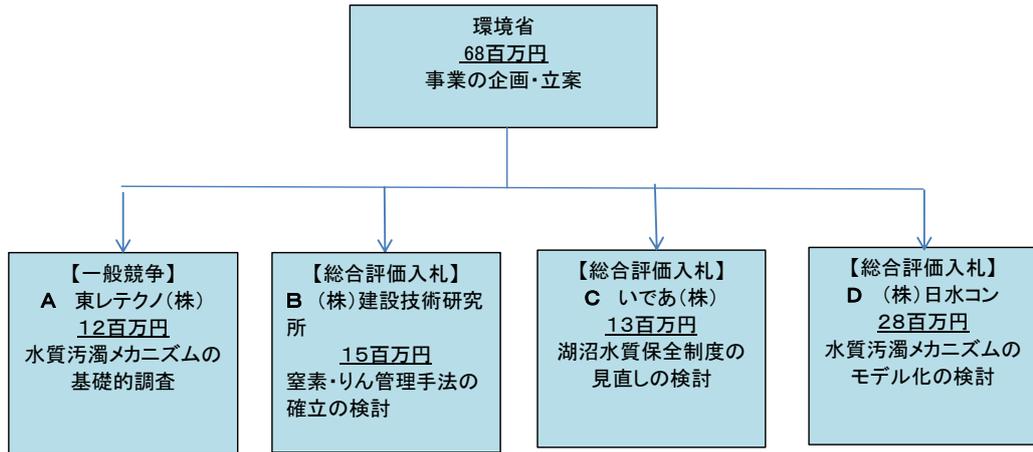
平成23年政事業レビューシート

(環境省)

事業名	湖沼環境対策等推進費		担当部局庁	水・大気環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度		担当課室	水環境課		水環境課長 吉田 延雄		
会計区分	一般会計		施策名	3-3 水環境の保全 (海洋環境の保全を含む)				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	湖沼水質保全特別措置法 第37条		関係する計画、通知等	指定湖沼における水質保全対策については、国は、地方公共団体が湖沼水質保全計画に基づく事業を円滑に実施できるよう、助言その他必要な援助を行うように努めることとされ				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	湖沼は、国民の健康で文化的な生活の確保に重要な役割を果たしており、国民がその恵沢を享受することができるように湖沼の水質の保全を図っていくため、湖沼の特性及び汚濁原因に応じた、効果的な水質保全対策の一層の推進を図ることを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	湖沼の水質汚濁メカニズム解明、経済的手法の検討及びこれらの調査検討を踏まえて湖沼の水質保全対策の更なる高度化を図る。また、窒素、りんが植物プランクトンの種組成に及ぼす影響等のメカニズムの解明、水生態系への悪影響及び水利用上の障害発生を未然に防止するための窒素・りんの管理手法の検討及び効果的な水環境保全対策を策定。さらに、住民が望む湖沼像、新たな水質指標、現在の水質保全制度の効果の検討を行い、水質保全施策の再構築、水質保全制度の見直しを行う。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	78	63	77	130	97	
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	0	0	0	0		
	執行額	78	63	77	130	97		
	執行率 (%)	70	43	68				
89.7%	68.3%	88.3%						
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績	単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	湖沼の環境基準の達成状況(COD)			達成度	%	53.0	50.0	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	指定湖沼水質保全計画の立案			湖沼	0	3	0	— (5)
単位当たりコスト	(円/)		算出根拠	本事業は、湖沼の水質保全を行うことを目的とした調査検討を行うものであり、単位当たりのコストを算出することは不可能				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	環境保全調査費	31	10	継続事業については、調査に係る旅費、人件費等を削減した。また、新規事業については必要性と緊急性を鑑み、24年度は要求を差し控えた。				
	環境保全調査等委託費	54	41					
	環境保全調査等地方公共団体委託費	46	46					
計	130	97						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	閉鎖的な水域である湖沼の環境基準の達成には、長期的な取組が必要。
	△	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>・国が代表的な湖沼を対象に水質汚濁メカニズムの一層の解明、水生態系及び水利用上の障害を発生させない適切な窒素・リンの管理手法の検討を行うことにより得られた知見を広く我が国の湖沼の一層の水質保全施策に活用する必要がある。</p> <p>・成果目標（環境基準）の達成には、長期的な取組が必要であるが、これまでの事業により得られた知見で、湖沼の水質改善では自然浄化機能を活用することが効果的であると考えられ、全国の様々な効果的な湖沼の水環境改善対策の知見をモデル事業により検証し、我が国の湖沼環境保全施策を促進していくことが必要。</p> <p>・引き続き競争性の高い調達に努めるとともに、予算の効率的、効果的な執行を図る。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>不要不急な事業は精査をし、予算の削減に努めること。特に地方自治体に委託する事業経費、新規事業については緊急性と必要性を考慮すること。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点（概算要求における反映状況等）			
<p>継続事業については、調査に係る旅費、人件費等を削減した。また、新規事業については必要性和緊急性を鑑み、24年度は要求を差し控えた。</p>			
補記（過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p></p>			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.東レテクノ(株)			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	琵琶湖等湖沼水質保全対策高度化基礎調査	12			
計		12	計		0
B.(株)建設技術研究所			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	窒素りん比変動による水生生態系の影響等調査検討	15			
計		15	計		0
C.いであ(株)			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	湖沼水質保全施策検討業務	13			
計		13	計		0
D.(株)日水コン			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	琵琶湖等湖沼水質保全対策高度化推進調査	28			
計		28	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
--	-----	------	--------------	------	-----

A.

1	東レテクノ(株)	水質汚濁メカニズムの基礎的調査	12	1	非公表
---	----------	-----------------	----	---	-----

B

1	(株)建設技術研究所	窒素・りん管理手法の確立の検討	15	2	非公表
---	------------	-----------------	----	---	-----

C

1	いであ(株)	湖沼水質保全制度の見直しの検討	13	6	非公表
---	--------	-----------------	----	---	-----

D

1	(株)日水コン	水質汚濁メカニズムのモデル化の検討	28	1	非公表
---	---------	-------------------	----	---	-----